

企業名：朝日工業社

---

レポート名： コーポレートレポート 2024 (統合報告書)

---

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか (将来)

企業理念が大々的に打ち出されているので理解できた。「環境」、「技術」、「人類文化の発展」という三つのキーワードは、個人的にわかりやすいように感じた。

また、事業紹介のところで、「事業を通じた価値創造」となっているところも印象に残った。「何を作れて、何を売りたいのか」という企業側の目線というよりも、「何を社会にもたらすことができるのか」という目線を大事にしているように感じ、企業理念と符合していると感じてよい印象を受けた。

トップメッセージにある、「さまざまな課題の解決に挑戦し続け、すべてのステークホルダーにとっての『オンリーワン・カンパニー』を目指します」という言葉からも、売上や利益が一位の、ナンバーワンではなく、朝日工業社にしかできない価値創造を行っていったオンリーワンな存在になるということを目指しているように感じた。

全体を通して、社会への価値創造を大事にしている、そのために高い技術を活かしていくという想像ができた。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか (現在)

おおむねできた。

「熱・水・空気」に関する高い技術力と実績を強みとして持っていることが分かった。価値創造メッセージや、研究開発のページなどから、高い技術を持っていること、それが強みになっていることが伝わってきた。特に、ムコライスの話については、朝日工業社が競合他社と比べても決して引けを取らないような最先端の技術を持っていることがわかりやすく伝わってきた。また、「なかでもデータセンター、半導体・医薬工場など高度な技術が必要な案件が増えてきており、当社技術の活躍の場が広がってきています」という記述から、現状増えているニーズに対応できる技術力を持ち合わせていることがわかった。

ただ、二点疑問点もある。一点目は、競合他社とはいかに異なる強みがあるかというのは読み取り切れなかった点だ。(コーポレートレポートでそれを伝えるのは非常に難しいのは当然であるが。) 機器製造販売事業も行っているのは他社とは異なる特徴だが、あまりその調子はよさそうには見えなかった。

二点目は、最近の好調の理由がいまひとつ説明されていないように感じた点だ。ここ数年の好調の背景をもう少し説明があると良かったと思う。先ほども引用したように、IT 等を用いたビジネスにおいて、精密な環境を整備するニーズがあり、それに対応することのできる技術力を持っているために、業界全体として伸びているのだろうかと推察しているが、な

ぜひ好調なのかがはっきりしている方が応援もしやすいように思う。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

部分的には理解でき、持続性はあると考えている。

前の一つ前の設問で回答したように、朝日工業社の強みの一つが技術力であると考えている。高度な技術力は、模倣しづらいものであり、新規参入を防ぐことができるだろう。また、人材育成、研究開発、サステナビリティを意識した戦略など、長期的な目線での経営を行っているという内容もみられる。

ただ、それらの良い点が、競合他社と比べてより優れているのかということと正直わからないところはある。実際、朝日工業社の売上が伸びてはいるが、競合他社と比べてその伸びの程度が著しく伸びているというわけではなく、近い将来、市場全体の伸びが落ち着いて、パイの奪い合いという構図になった時に、朝日工業社こそが生き残れるというふうには判断できなかった。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

条件付きで、できると思う。

理由は二点あって、一点目は、中期経営計画で掲げられていた、「事業戦略」「人材戦略」「イノベーション戦略」という三つの戦略のうちの一つに人材戦略があり、人材を重要な経営資源である意識していることがよく伝わってきたからである。最近では、多くの企業が、働きやすい環境を整えるということをやっていると思うが、その中でも、最も重視している三つのうちの一つとして掲げているというのは、人材を大事にするという意識が見て取れた。

二点目は、高度な最先端な技術を朝日工業社が持っていると感じられたことである。研究開発のページや、オンリーワンカンパニーへの挑戦などのページを見ると、かなり高度な技術を持っているということが感じられ、朝日工業社で経験を積めば、そのような最先端の技術を使いこなす、あるいは、自ら開拓していくことができるかもしれないというロマンが感じられた。

条件付きでとしたのは、技術職以外はどうか、というところや、どのようなキャリア形成ができるのかというのがわからなかったからだが、コーポレートレポートからそれがわかる必要もないと思う。

## 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かったと思う点から記述する。良かったと思う点は、価値創造を大事にしているところと、人的資本を大事にしているところ、高度な技術を持っているところがよく伝わってきたということだ。

社会にどんな価値を付加しているのかという視点を大事にしているのは、お金稼ぎだけではないという意味でも好印象であった。イノベーション的な視点で考えても、シーズ起点だけでアイデアを出すよりも、ニーズ起点と両方をかけ合わせる方がよいと言われているので、良い視点だなと感じた。

技術力の高さに関しては、よく読むとそのすごさや先端技術のロマンが伝わってきた。個人的には、〇〇システムなどと言われるよりも、ムコライスのようなワクチンという、素人でも最先端研究であることをイメージしやすいものを支えている、しかも大学などと連携している、と聞いた方がその技術の高さをイメージしやすかった。技術自体にはなじみはないので、その技術を活かしてどんな研究がなされているのかまで説明しているのが、イメージのしやすさにプラスに影響したと思う。

人的資本を大事にしているという内容が頻繁にコーポレートレポートに登場していたことから、かなり意識してその言葉を取り入れているのだろうと思い、人材への意識の高さが伝わってきた。

今挙げた三つの要素は、どれも財務諸表だけでは伝わってこない内容であるので、それを補完するものである、コーポレートレポートとして良い役割が果たしているのではないかと思う。

一方で、改善余地があると感じたのは、やはり素人への事業内容や技術の伝わりづらさなのではないかと思う。私のような、業界に関する知識のない人間からすると、はじめは業務内容がよくわからなかったし、技術の高さもよくわからなかった。ただ、その他の情報媒体を参照したり、朝日工業社の公式のサイトを精読していったりすることで、少しずつ分かっていった。

「専門性が高く、技術の高い企業が行うことで、より快適な空間を作ることができたり、環境への負荷や、かかるコストなどを軽減したりすることができる。空調はとても長い時間稼働するものであるし、その少しずつのポジティブな要素は、長期的に見るとかなり大きいものになるだろう。」とわかってくると、朝日工業社のすごさ（社会に与えている価値の大きさ）も伝わってきたように思う。また、医療や半導体のような精密さが求められる場面では、空調にももちろんこだわる必要があって、朝日工業社は、そのこだわりに応えられる技術を持っていると考えると、ここでもとてもすごいなと思えたのだが、そのようなことが、精読をしたり、他のサイトで調べてみたりするまで伝わってこなかったというのはもったいないと感じた。投資家の方々は私よりも知識があることが多いのかもしれないが、私のよ

うな無知な層にも届けようと思うのであれば、いかにその技術が重要で、すごいのか、ということがシンプルに伝わるとよいと思う。